

「主な取組」 検証票

施策展開	2-(4)-ア	安全・安心に暮らせる地域づくり	施策	③ 交通安全対策の推進
			施策の小項目名	○交通安全環境の整備
主な取組	交通安全施設の整備			
対応する主な課題	⑤交通安全対策として、交通安全施設の整備に加えて老朽化した信号機や道路標識、消えかかっている道路標示等の更新について充実強化する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
安全で快適なゆとりある道路空間を創出するため、必要とされる箇所に防護柵や道路照明、視線誘導標等の交通安全施設を設置し、交通事故の抑制を図る。		H29	H30	R元	R2	R3
		事故危険箇所指定	事故危険箇所設計	整備		
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		防護柵や道路照明等、交通安全施設の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
公共交通安全事業							当初予算額	主な財源	OR元年度：国土交通省と警察庁により指定・登録された事故危険箇所内の、2箇所の整備を推進した。 OR2年度：引き続き、事故危険箇所の設計、整備を推進する。	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	186,247	一括交付金(ハード)		
一括交付金(ハード)	直接実施	433,156	309,400	118,446	130,847	174,528				

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
							当初予算額	主な財源	OR元年度： OR2年度：	

活動指標名	事故危険箇所設計(交通安全施設の整備)				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B	174,528	順調	国により指定された事故危険箇所において、国道507号で2箇所の整備を進捗が図れた。 また、市町村等から事故対策要望があった18箇所においても、交通安全施設を整備した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 国により指定された事故危険箇所において、残り4箇所内の、国道507号の2箇所の整備を進捗が図られたことや市町村等からの事故対策要望があった18箇所において整備を実施し、交通安全施設の充実を図れたことから、順調としている。
		—	—	事故危険箇所指定	事故危険箇所設計(交通安全施設の整備)	事故危険箇所整備(交通安全施設の整備)	事故危険箇所整備(交通安全施設の整備)			
実績値										

(2) これまでの改善案の反映状況

令和元年度の取組改善案	反映状況
・関係市町村や地域と連携して、対策要望箇所と一緒に現地確認、整備調整を実施し、状況把握を行うとともに、現場の状況に応じた最適な安全確保の方策を検討し、引き続き交通事故危険箇所以外についても優先順位を付け交通安全施設の整備を行う。	・平成31年5月に発生した滋賀県大津市において、集団で歩道を通行中の園児らが死傷した交通事故を受け、道路管理者、保育所、市町村、警察等、関係機関で合同で未就学児が日常的に集団で移動する経路等の交通安全の確保のため、合同点検を実施し、危険箇所の抽出を行い安全対策を検討した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・平成31年5月に発生した滋賀県大津市において、集団で歩道を通行中の園児らが死傷した交通事故が発生したことで、国からの通知により、道路管理者、保育所、市町村、警察等、関係機関で合同で未就学児が日常的に集団で移動する経路等の交通安全の確保のため、合同点検を実施し、対策を行うことが求められた。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・合同点検で抽出された危険箇所について、早急に対策を行い、未就学児の安全を確保する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・合同点検で抽出された箇所について、早期に対応可能な箇所は、重点的に交通安全施設の整備を行い危険箇所の削減を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	2-(4)-ア	安全・安心に暮らせる地域づくり	施策	④ 水難事故対策の推進
			施策の小項目名	—
主な取組	河川利用者の安全対策			
対応する主な課題	⑦河川環境の改善に伴い、河川利用者の増加や利用形態の多様化が進んでいることから、河川管理者には水難事故の未然防止及び事故発生後の迅速な救助等の安全対策が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
環境・景観に配慮した多自然川づくりを推進するとともに、河川での水難事故を防止するため、地域と連携して県民の安全・安心を確保する。		H29	H30	R元	R2	R3
		河川安全管理計画の策定				
		河川安全対策施設の整備				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部河川課		【098-866-2404】			地域への安全教育等の実施

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	臨時河川等整備事業費（河川）						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：河川管理用通路に安全対策のため転落防止柵等を設置した。 OR2年度：引き続き、平成31年度も河川管理用通路に安全対策のため転落防止柵等を設置する。
							県単等	直接実施	
予算事業名	—						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：— OR2年度：—
							—	—	—

活動指標名	河川安全管理計画の策定				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		—	—	—	—	計画策定	—	100.0%	45,911	順調
	—	—	—	—	転落防止柵等の設置	—	100.0%			
	—	—	—	—	安全教育等の実施	—	100.0%			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案					反映状況					
・河川での水難事故を防止するため、引き続き転落防止柵の設置など安全対策に取り組む。 ・引き続き河川にレジャーを楽しむために訪れる人々に対し、沖縄県、県警、他各種団体で構成する沖縄県水難事故防止協議会を通じ、県警等と連携して県民の水難事故に対する意識を啓蒙していく。					・河川での水難事故を防止するために、引き続き転落防止柵の設置等の安全対策に取り組む。 ・河川利用者等が集まる河川清掃の際に水難事故防止について工法を行ったことで、河川利用者の安全意識の向上が図れた。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・河川での水難事故を防止するためには、転落防止柵の設置などの安全対策が必要であるが、本県における整備はまだ十分とはいえない状況である。

○外部環境の変化

・近年、身近で自然豊かな河川を利用してレジャーを楽しむ人々が全国的に増加しており、これに伴い河川における水難事故も多発している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・河川での水難事故を防止するためには、転落防止柵の設置などの安全対策に引き続き取り組むと共に、水難事故に対する県民の意識を高める必要があるため、地域住民や教育機関等と連携した取り組みを実施する必要がある。

・近年、身近で自然豊かな河川を利用してレジャーを楽しむ人々が全国的に増加しており、これに伴い河川における水難事故も多発していることから、河川利用者に対し安全意識の向上を促す事が重要である。

4 取組の改善案 (Action)

・河川での水難事故を防止するため、引き続き転落防止柵の設置など安全対策に取り組む。
・水難事故に対する県民の意識を高めるため、地域住民や教育機関等と連携した取り組みを実施する。
・引き続き河川にレジャーを楽しむために訪れる人々に対し、沖縄県、県警、他各種団体が構成する沖縄県水難事故防止協議会を通じ、県警等と連携して県民の水難事故に対する意識を啓蒙していく。